

水のある幸せ

私の家は、小さな畑でつくりやすい野菜をほんの少し育てています。立派な野菜に成長するまでには、たくさんのお水が必要になります。そんな、命の源とも言える水ですが、一体、どのように各家庭におくられているのでしょうか。

私は、それを知るために、まず自分の住んでいる地域にあるダムに見学に行きました。そこでは、ダムのことをより多くの人に知ってもらうために、見学ツアーを実施していて、ダムの内部を実際に歩いて見学できたり、会議室でダムの目的などについて説明を受けることができました。すると、そのダムは、総事業費六百億円で完成したということがわかりました。また、水道の水ガメであるダム湖では、植物性プランクトンの増殖による臭気

山添村立山添中学校 三年

杉原 育美

の発生などを防止するため、浅層及び深層曝気装置をそれぞれ一基ずつ設置されているそうです。このように、ダム一つをとっても、大変な量のお金と手間がかかっているのです。日本は地形が急峻で短い河川が多いこともあり、水を使ったりするには、不利な立場なので、試行錯誤しながら、今の、飲みたいときに飲めて、使いたいときに使えるような環境になったのかなあ、と思いました。

私はある晩、テレビを見ていました。たくさんある番組のなかから、すごく気になる内容のものがありました。一人の少女が何リットルもの水を、ジリジリと照りつける太陽の下で運んでいました。水をくみに行く仕事は、女の人や子どもたちの役目だそうですが、とても楽な仕事とは言えません。それなのに、

がんばってくみに行っている水場は、すこしの量の、茶色くにごった水があるだけでした。そんな水を「おいしい」と言って飲んでいる姿に、私はショックを受けました。私たちがら、そんな水を飲んだら病気になってしまおうと言うでしょう。でもそれは、体に害の無い水が手に入るから言える言葉です。世界には、十分に安全ではない水にたよるしかない人びとは、大勢います。そんな、きれいな水を待っている人たちのところに、日本の井戸掘り名人が現地に行き、地域の人たちと協力していろんな困難を克服しながら、水が出ると信じて、ひたすら井戸を掘っていました。そしてついに井戸が完成し、涙を流して喜んで飲む様子を見て、私は改めて、普段、何気なく飲んでいいる水が何にも変えられない宝物のように感じられました。

私は、このようなことを知ってから水を使いきすぎたりして無駄にしないようにしたいと考えるようになりました。そこで、まず、家にいるときに、節水を心がけて生活をしてみました。シャワーを使いすぎない、手を洗ったり歯を磨いたりするときも「もったいな

い」という気持ちも大切にしながら必要な分だけの水を使いました。そんなふうには、水を大切に使うようになっていくようになると、すごく心が晴れやかになった気がして、うれしかったです。今では、家庭も節水を実行していて、水は出しっぱなしにせず、風呂の残り湯を洗濯の時に使ったり、米のとき汁を花などにやつたりしています。

これから、水を活かす生活を心がけていきたいと思っています。そして、水に感謝して、日々をすごしていきたいです。きつと、そうすること、水問題は少しずつ改善されるだろうと考えています。たとえ、小さなことだとしても、良い方向に進んでいることは間違いなく信じて、自分にできることを一人ひとりが行動に移すことで、未来は開けると思っています。